

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐 (すずらん)		
所在地	奈良県榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990500049-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990500049-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年3月より健康セミナーを予定し取り組むことが出来ました。地域の方々又退去された家族様にもご案内させて頂き足を運んで来て頂いております。又地域包括の保健師さんや訪問看護さん等も参加して下さいます。体操の内容も普段利用者様と取り組んでることをさせて頂いております。参加者さんの中でもハーモニカを吹いて下さったり賑やかな時間を過ごさせて頂いて居ります。利用者様の体調管理も医療体制より訪問看護、かかりつけ医と連携し、きめ細かい体調管理を実施しております。そして日常生活の家庭的雰囲気も大切に日頃散歩や外出の機会も持つように努めています。利用者様には季節を感じて頂き日々の生活の中に楽しみを見つけながらグループホームと言う共同生活で一日も長く暮らして頂く取り組みを継続して行きたいです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は今年度より地域に向けて健康セミナーを実施し、毎月開催することで地域の方々の参加も増え、地域の中でのグループホームの現状や生活している利用者への理解が得られ交流が深まるよう取り組んでいます。果実の収穫時期には近隣の方よりお裾分けが届き干し柿作りをしたり、四季の移ろいが感じられる環境の中で利用者が得意な事に能力を発揮したり、散歩や体操の機会を増やし筋力を維持できるよう日々支援をしています。また、玄関には利用者の一日の生活と一年の出来事を表情が分かる写真やコメントを入れた職員の手作りアルバムを置き家族等の来訪者にホームでの暮らしが分かるようにしています。また、職員の離職率も低く連携を図りながら利用者や家族、地域の方々笑顔で接し地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心して そして 穏やかに暮らして頂く」をホームの理念として日々の業務を実践しています。そして理念に基づいた環境作りに努めています。新入社員にも入社時には説明しております。	職員が話し合い作り上げた事業所独自の理念は玄関ホールに掲示し、入職時には理念に込められた意味や思いを説明しています。日々のケアの中で利用者が穏やかに過ごしているか等を確認し実践に繋げています。また、会議の中で話し合いや振り返る機会を持ち異動や入職時等の節目毎にも原点に戻り、理念を意識した支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ニチイ祭りを通して地域の皆さんと交流を図って来ました。折、今回健康セミナーを実施し日々の中に取り入れている体操や歌等を歌いながらすごさせて頂いています。又参加くださって居られる中でハーモニカの得意な方が居られ その方の演奏で参加者全員で歌って過ごさせて頂いて居ります。	自治会に入会し事業所で行われる秋祭りや健康セミナーはボランティアの協力を得て案内を行い、地域の方や家族など多くの方の来訪があります。また、踊りや太鼓等のボランティアの来訪や中学生の体験学習の受け入れも行っています。利用者が散歩の途中に出会った方々と挨拶を交わしたり、無花果や柿等のおすそ分けもあり日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	榎原市地域包括が開催しているオレンジカフェにも参加させて頂き今後も積極的に参加させて頂き家族様の不安等聞かせて頂きたく思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。介護相談員さん訪問看護さん又訪問マッサージの先生方家族様方に参加して頂き事業活動について報告し御意見を頂いています。充実した会議になる様努めています。	運営推進会議は2カ月に1度事前に議題を伝えて開催し、参加者は家族や介護相談員、地域包括支援センター職員、訪問マッサージ師や訪問看護師等多岐にわたり、市会議員の参加を得たこともあります。事業所の現状報告を含め意見交換を行い、相談員の意見を受け医療連携や訪問看護について説明し事業所の取り組みへの理解に繋げています。また、行事と同日に行う事で多くの方の参加を得る等工夫しながら開催しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れて貴重なご意見を頂いています。そして行政の担当の方に現場の実情を伝える機会を作っています。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、事業所の取り組みや現状を伝えています。直接出向いたり電話などで制度や問題点を含め些細な事でも相談できる関係が構築されています。また研修案内は随時届き出来るだけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	榎原市の身体拘束の研修に参加させて頂いてもらってます。ホームでも職員が意識しケアに取り組んでいます。そして委員会活動を職員研修に取り入れて正しく理解して意識付けをしてケアに取り組んでいます。	身体拘束に関する研修は年に2回以上あり、法人研修に参加した職員の資料を基に身体拘束委員会を中心に勉強会を開催し、拘束による弊害も含め理解を深めています。中でも言葉による拘束はリーダーを中心に職員に指導を行い互いに注意し合える様に取り組んでいます。フロアーの入口は職員体制により短時間施錠を行う事もあります。が、基本的には施錠は行わず連携して見守り自由に過ごせるように関わっています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束のマニュアルを確認し社内研修社外研修に参加し日々のケアの中で注意を払い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後も支援する機会があれば活用して行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際はゆっくりと説明を行い、理解納得して頂いてから契約書や重要事項説明書に署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。会議の中で貴重なご意見を頂いています。又面会時や介護計画の説明時にもこちらから ご意見や要望を伺うようにさせて頂いています。	家族の意見は面会時や計画の更新時に直接意見を聞き、面会の少ない家族には電話やメールで状況報告を行い意見がないかを聞いています。個別のケアに対する要望が多く、その都度対応していますが個別の意見でも他の利用者の対応を見直すことも心掛け、サービスに反映しています。利用者の要望は日々のケアの中で聞いたり、介護相談員を受け入れコミュニケーションを図る中で聞いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者は普段のコミュニケーションの中で随時意見を交換しアクティビティや個々の介助等の提案について積極的に取り入れるようにしている。又ホーム会議やカンファ等で意見や提案を出しやすい環境づくりに努めています。	毎月行われる会議では参加者した職員は必ず意見や提案等を出し、参加できない職員は書面で意見を提出することで、スムーズに話し合いが行われ決定事項は職員間で共有できるようにしています。職員は日々のケアの中でも管理者やリーダーに様々な提案や悩み事を相談しており、管理者は職員と定期的な面談も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い明るい環境作り努めています。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。又キャリアアップ制度があり試験面談でステップアップ出来スタッフの意欲と質の向上に繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出来るだけ調整しています。働きながらのトレーニングはその時に併せて必要な声かけを行う努力をしています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談派遣事業における三者関連連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には自宅を訪問させて頂き家族様の思いや不安等少しでも気になる事があれば気軽に質問して頂ける様案内し家族様の見学や質問などにも積極的に対応するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様本人の意向を伺い必要なケアが提供出来る様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に置いてしっかりとコミュニケーションを図りスタッフも家族の一員と言う視点で関わるようにしている。本人の経験や趣味を活かし干し柿野菜の世話料理など負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に散歩や散歩や外出に付き添って頂いたり家族様の思いを尊重し共に理解し支援出来るように努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や親戚の方 お友達の方々に外出に制限が無いことをお伝えし 家族様と外出や帰省される場合は情報提供や介助方法のアドバイスを する等支援を行っています。	家族以外にも知人が面会に来られることもあり、その際には自室に案内し椅子やお茶を準備し、ゆっくり過ごせるように支援をしています。友人の面会時に一緒に写した写真を部屋に飾っている方もいます。家族の協力の下自宅に戻ったり、買い物や外出に出かける方もおりその際には準備などの支援を行っています。手紙や年賀状のやり取りに関して も支援を行い、これまでの関係継続に努めています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアテーブルで座る場所を利用者同士が上手に関わりが持てるようにスタッフが誘導・気配りしており楽しく安心して過ごせる様に対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方については差しさわりのない範囲で家族様からの状況を伺い希望により相談をうけさせて頂いたり交流を持っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で一人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様努めています。行動を強制する事無く自然な状態で一日一日を過ごして頂いています。	入居前に利用者や家族の思いや出来る事や出来ない事、日課、習慣、好み等を所定の様式に家族にも記載してもらい、今まで関わっていた事業所等からも情報を得て思いの把握に努めています。入居後は利用者の言葉を個人記録の「その日のつぶやき」欄に毎日記録し、課題や職員の気づきを基にカンファレンスを行い職員間で意見を出し合い情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族様からの情報を得られるように努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの状態・生活歴等を理解しカンファレンスなどで話し合い日々の記録や水分排泄を確認し普段からの状態の変化に対応出来る様取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	利用者や家族の意向に添った介護計画を作成し3～4か月毎のモニタリングで計画の実施状況を確認して評価し、再アセスメントを行い見直しています。状況の変化のある利用者はその都度再アセスメントの基見直し一人ひとりの状況に合った計画となるよう取り組んでいます。見直しに当たっては本人や家族、医師や訪問マッサージ師、看護師の意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録申し送りなどスタッフで共有しケアに行かせるようにしています。		

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が歩んできたこれまでの生活がなるべく途切れない様に生き活きと暮らせるように支援させて頂いています。又近隣へ散歩やドライブに行き外出など楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医 診療所との連携を図りながら協力体制を作り支援させて頂いています。	入居時にかかりつけ医について説明を行い今までのかかりつけ医を継続している方もいます。受診の際には家族が同行し書面で情報提供し、受診後は家族より結果を聞いています。協力医による月に2回の往診や週に1回訪問看護師の訪問があり、緊急時は24時間連絡が取れる協力医の指示で訪問看護師の処置を受けることもあります。歯科や訪問マッサージによる訪問もあり希望者は治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様医療介護が連携を取れる様に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人 家族様の意向を重視し相談しながら早期退院に向けて対応させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂けるよう家族の希望や主治医の判断により出来るだけターミナルの対応を行っている。又入居時から終末期の過ごし方について家族様に意向を確認し重度化した場合や終末期には家族と主治医と連携を図りながら方針を行っています。	入居時に重度化の指針を基に説明を行い、家族の同意を得ています。状況によって医師と家族、事業所での話し合いを都度行い方針を確認し相談しながら支援しています。職員は日々の些細な変化を見逃さないように観察し、個々の状態により医師や看護師から指導を受け、家族の協力も得ながら看取りの支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練を実施しています。そしてAEDの応急手当の講習会も定期的に行い 実践力を身に付けています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	年に2回昼夜を想定した火災訓練の内1回は消防署の立ち合いの基行い、通報から避難誘導まで利用者也参加し実施しています。訓練時には協力が得られるよう地域の方に知らせ、参加を呼び掛けています。また、地域の防災訓練の研修が年に1回あり職員が参加しています。災害時に備え備蓄品の準備が来ています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが居室に入るときは必ず本人に声を掛けるなどプライバシーを守る接遇を心がけている又その方に合わせた話しかけがなされる配慮しています。	接遇マナー研修は年に数回あり代表者が参加し伝達講習を行っています。基本的には敬語で丁寧な言葉遣いを行うように指導しています。居室に入る時には必ず了解を得たり、馴れ合いな言葉遣いは避け、利用者に合わせた対応を心がけ、不適切な対応が見られた場合はその場で注意をしたり、カンファレンスで話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で食事の準備や片付け洗濯たみの声かけ等庭やベランダに気軽に出入られることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい事や身体状況を見ながら取り組み支援出来る事に努めています。そして充実した一日を過ごして頂けるようにコミュニケーションを取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備 配膳 片付け等自発的に参加して頂いている又畑で収穫した野菜を食事に取りいれているため普段からなるべく利用者さんと一緒にさせて頂いている。そしてメニューや調理方法を教えて頂いたりしています。	毎日の献立は冷蔵庫の中の食材を見て利用者と一緒に決めていきます。下ごしらえや味見、盛り付けや配膳、後片付けやおやつ作りも出来る方に携わってもらっています。年間行事に合わせた食事の工夫や寿司の出前を取ったり、弁当を作り駐車場で食べる事もあります。また、畑で育てた季節の野菜が食卓に上がる事もあり楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取量も記録して支援しています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食後口腔ケアの お声かけ等させて頂きうがい 歯磨き 義歯洗浄している ご本人が出来ない場合スタッフが介助させて頂きます。月2回訪問歯科で口腔ケアマッサージを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握してトイレの声かけや誘導を行っている。又排泄チェック表使用してある程度予測して紙パンツの使用を減らしている。尿意便意のある方には さり気ない声かけや見守り確認などで重視した支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェックを行うことにより個々のリズムを把握し、その人に合わせトイレ誘導を行っています。自分でトイレに行ける方の能力と筋力を維持出来る様にトイレの場所も分かり易い文字と貼り絵で表示しています。日々のケアの中では排泄用品の検討を行い、パット類の使用量も少なくなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操 散歩を日課にしており食事形態 毎日の水分補給に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて出来る限り入浴して頂ける様に心掛けています。又入浴剤も取り入れ気持ちよく入って頂いています。	入浴は週に2~3回利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応しています。入浴を拒む方には無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫し時間も考慮しています。本人専用のシャンプーや石鹸を使う方や好みの入浴剤を選んで色や香りを楽しんでもらい、ゆっくり入浴できるように支援しています。また、浴室や脱衣室の温度管理にも気をつけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっており本人の希望に応じて少し横になったりお昼寝をしたりテレビを付けたまま寝たりなど自由の使って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携を取りながら個人のお薬ケースと説明書を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により役割を分担して出来る作業を行っています。ご本人の好きな事 得意な事を見つけ塗り絵や絵を描いたり習字など可能な物は個別対応で実施しています。		



ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩に出かけています。最近では外食やドライブなど個々の希望に応じて実施しています。	天候と体調に合わせ2~3人の少人数で事業所近辺を散歩しています。季節の行事では、遠足や花見を企画し楽しんでもらっています。また菜園の手入れや野菜の収穫、洗濯物を干したり、駐車場では外気浴やお茶を飲みながら会話したり、歌を歌うなど外に出る機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっています。希望に応じて使えるように支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも 希望に応じてお電話したり お手紙を出したり出来る環境作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁面工作や写真を掲示し 何気なく利用者様のお話にも出てきます。廊下や浴室に暖房を付けて温度差のリスクに対応させて頂いています。	共用空間には手作りの作品や絵が壁に飾られ季節感のある雰囲気になっています。リビングにはテーブルやイスの他に庭が望める場所にソファが設置され、好きな場所で自由に過ごせるように配慮しています。温湿度の管理や空調の風が直接当たらないように簾で風向きを調整しています。毎日清掃や換気を行い特に冬季には加湿にも気を配り、快適な空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を使って頂いたり又椅子を移動させて会話をしたり気楽に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていたタンスや家具など使用されたり写真や趣味で書かれた絵など飾らせて頂いたり ご本人にとって居心地の良い空間となる様に配慮しています。	入居前の面談で持参する物を家族と一緒に相談しテレビやラジオ、使い慣れた筆筒や椅子、趣味の絵の道具や本等の他、大切な家族や孫の写真を飾り、出来るだけ自宅に近い状態になるように考慮し利用者の安心に繋がるよう支援しています。また、自宅での生活習慣を尊重し、ベッドか布団を選択してもらっています。居室の清掃やシーツ交換は出来る方は携わって貰っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止め素材を使用して床で手すりも多く設置しており食堂、リビング、トイレ等バリアフリーで自由に歩いて移動出来るようにしています。		